

佛國憲法ニ於ケル統帥權ト  
國務大臣ノ責任

MILITARY COMMAND AND MINISTERIAL  
RESPONSIBILITY IN THE CON-  
STITUTIONAL LAW  
OF FRANCE

II.

教 授

中 野 登 美 雄

PROF. T. NAKANO

1925



## 目 次

第三節 現行憲法ノ下ニ於ケル統帥權	54
緒 言	54
第一項 統帥ノ最高機關	55
(イ)行政ノ最高機關トシテノ大統領ト統帥權	55
(ロ)大統領ノ統帥權ト其範圍	57
(ハ)大統領ノ軍事官房	60
(ニ)最高統帥機關トシテノ大統領ノ價值	61
第二項 非常最高統帥機關	64
第三項 統帥權行使ノ憲法上ノ條件	66
(イ)國務大臣ノ副署ト統帥權	66
(A)統帥機關トシテノ陸海軍大臣	71
(B)統帥機關トシテノ國務大臣ノ價值	72
(ロ)內閣ト統帥權	72
第四項 軍事委員會	74
第五項 國務大臣ノ下ニ於ケル主要統帥機關	75
(イ)參謀本部長	75
(ロ)軍司令官	76
(ハ)軍令諮詢機關	77
第六項 統帥權ト軍司令官ノ權限	77
(イ)一九一三年九月廿八日ノ高等統帥ニ關ス	



---

ル命令ニ於ケル國務大臣ト軍司令官ノ權	
限ノ限界	79
(ロ)一九一五年十二月二日ノ命令ニ於ケル權	
限ノ限界	82



### 第三節 現行憲法ノ下ニ於ケル統帥權

#### 緒 言

現行一八七〇年制定ノ第三共和國憲法モ亦、統帥權ト國務大臣ノ責任ノ關係ニ就テハ、一七九一年ノ憲法ノ主義ヲ採ツテ居ルノデアツテ、文政權ニ由ル軍政權ノ支配ニ關スル根本主義ハ、佛國ニ於テハ其共和主義ト共ニ最早拔ク可ラザル基礎ヲ有スルニ至ツタモノデアル、唯、現行憲法ノ初期ニ於テハ、共和主義ハ決シテ強固ナ基礎ヲ有シテ居タモノデナク、憲法制定ノ當時ヨリ數年ノ間ハ、君主主義ハ議會ニ於テ共和主義ニ對シ優勢ナル地位ヲ占メテ居ツタノデアツテ（註一）憲法ガ共和制ノ形式ヲ採ルニ至ツタノハ、一面ニ於テハ、ビスマルクノ、佛國ノ獨國ニ對スル復讐ヲ怖レ、佛國ヲシテ虛弱ナラシムルガ爲ニ、共和制ノ樹立ヲ陰ニ助長シタノト、他面ニ於テハ、當時、君主主義者ハ、黨派ニ分裂シテ、擁立スベキ適當ナル君主ノ選定ニ困難ヲ感ジタコトニ由ルモノデ、決シテ議會ノ内外ニ於テ、共和主義ノ優勢ナリシガ爲デハナイ、此點ハ、一八七五年ノ共和憲法ガ、僅カニ一票ノ差ヲ以テ通過シタ事實ニ由ツテ見ルモ、知リ得ルデアラウ（註二）

サレバ憲法ハ、君主主義ト共和主義ノ妥協ノ產物デアツテ、君主主義者ハ、初メハ機會ダニ至ラバ共和制ヲ變ジテ王政ニ復古セシメヨウト期シテ居ツタノデアル、從ツテ一時ハ王政ノ復



古ト共ニ、統帥ノ根本組織モ、帝政時代ニ於ケル如キ形式ヲ探ツテ出現スルニ非ズヤト危惧セラレ、而シテ斯クノ如キ危險ハ、マクマオンガ議會ヲ解散スル頃マデハ、存シテ居タガ、バリー伯爵ト、シヤムボウ伯爵トノ妥協ガ失敗ニ歸シ、適當ナル君主ヲ選ブノ見込ナキニ至ルヤ、共和憲ハ漸次、勢力ヲ得、前述ノ如ク、マクマオンニ由ル議會ノ解散ノ頃ニ至ツテハ、共和主義ハ、議會ニ於テ最早、確定ノ基礎ヲ有スルニ至リ（註三）往年ノ憂ハ一掃サル、ニ至ツタ、故ニ憲法ノ規定スル統帥權ノ組織ハ、最早、佛國ニ於テハ、其共和主義ト共ニ、極メテ強固ナル基礎ヲ有スルモノト云フベク、此點ハ後ニモ述ブル如ク、佛國ガ大戰中、幾多ノ技術上ノ困難ノ有リシニモ不拘、大體一貫シテ此根本主義ヲ維持シタニ由ツテ見ルモ明カデ有ラウ。

### 第一項 統帥ノ最高機關

#### （イ） 行政ノ最高機關トシテノ大

#### 統領ト統帥權

現行憲法ガ君主主義ト共和主義ノ妥協ノ產物タルコトヨリスルモ、大統領ノ權限ノ大ナルベキハ想像スルニ困難デハナイガ、法律上ノ權限ノ大ナル點ニ於テハ、佛國ノ大統領ハルイ十四世ノ欽定憲法ニ於ケル君主ヲ僞バシムルモノト云フモ、必ズシモ、誇大ノ言ナリト云フヲ得ナイノデアツテ、共和國ニ於ケル國家元首ノ權能トシテハ、稀ニ見ル所ト云ヒ得ベキデアル、此點ニ就テハ、余ハ嘗ツテ『佛國ノ大統領ハ世界ノ共和國中、最大ノ



實權者ト見做サル、北米合衆國ノ大統領ヨリモ、法律上ノ關係ニ於テハ、更ニ大ナル權能ヲ與ヘラレテ居ル、<sup>ホワイトハウス</sup>白亞館ノ專有者ハ、法律上ノ見地ヨリ見レバ、國民ノ選出スル任期四年ノ行政ノ最高機關ニ過ギナイガ、Elyséeノ住者ハ任期ニ制限アル君主ト云フモ過言デアルマイ、ト批判シタ（註四）ガ、之レ固ヨリ法ノ形式カラ見タモノデアツテ、抑、現行佛國憲法ハ、ステニ述ベタ如ウニ、其制定ノ歴史ニ於テ半バハ、君主政黨諸派ノ手ニ由ツテ産聲ヲ舉ゲタモノデ（註二）此點ヨリスルモ大統領ノ權能ノ大ナルハ當然デアルガ、特ニ現行憲法ハ第二帝政ノ末期以來、漸次ニ勢力ヲ増シ來ツタ英國ノ憲法ヲ模範トスル、ブログリー侯（註三）及ビ、プレヴオ、バラドール一派ノ（註五）議會政治論ヲ基礎トシテ制定セラレタモノデアツテ（註六）而シテ是等ノ『立憲論者』ハ、英國竝ビニ十九世紀前半期ニ於ケル佛國ノ君主主義憲法ニ於ケル君主ノ大權ヲ性質ノ許ス限り、殆ド其儘、大統領ニ移サントシタモノデアル（註七）一八七五年ノ憲法制定議會ニ於テ委員會ノ一員トシテ大ナル勢力ヲ奮ツタ、ブログリイ侯ノ言ヲ籍リテ言ハバ『行政權ノ首長ハ不可侵タルベク、其權能ハ立法ノ發案權、立法拒否權、行政各部ノ指揮監督權、文武官ノ任免權、陸海軍ノ統帥權ナド、君主ニ屬スル權能ノ總テニ互ルベキモノデアル（註八）

サレバ大統領ノ權能ノ大ナルベキハ怪ムニ足ラスガ、就中、軍ノ統帥權ハ國家ヲ内外ニ代表スル行政ノ最高機關トシテノ大



統領ノ專有スル所デアツテ、一八七五年二月二十五日ノ公權ノ組織ニ關スル法律ハ、其第三條ニ於テ『大統領ハ軍ヲ統帥ス』ト規定シ、以テ大統領ガ統帥ノ最高機關ナルコトヲ明カニシテキル、議會又ハ裁判所ガ軍隊ヲ統帥スルノ權ヲ有セザルハ勿論デアルガ、國務大臣又ハ其以下ノ機關ガ統帥權ヲ行フ場合ニ於テモ、其最高權ハ大統領ニ歸屬スルモノデアル。

#### (ロ) 大統領ノ統帥權ト其範圍

行政ノ最高機關ハ同時ニ統帥ノ最高機關タルベク、統帥權ハ行政權ノ一部トシテ行政部ニ屬スベキハ國家作用ノ分類ニ關スル學說ノ例外ナク認ムル所デ有テ(註九)又法制ニ於テモ殆ド例外ナク認メラル、所デアル、唯、列國ノ憲法中ニハ統帥權ヲ國家元首ニ認ムルニ由テ生ジ得ベキ權力ノ濫用ヲ防止スルガ爲ニ、又ハ軍事上ノ專問的知識ヲ有セザル元首ガ、軍ヲ統帥スルニ由リテ生ズベキ國防上ノ危險ヲ防止スルガ爲メニ元首自ラ直接ニ軍ヲ統帥スルヲ禁止スル者アリ、就中、革命ト武斷專制ノ弊ニ苦ンダ佛國ハ其共和三年ノ憲法及ビ一八四八年ノ共和憲法ニ於テ、他ノ國家ニ先ジテ明文ヲ以テ此禁止ヲ規定シ(註十)一八七三年三月 Dufaure ノ提出セル憲法草案(註十一)ニモ亦、同様ノ規定ヲ見タ、現行憲法ニ就テモ亦、以上ノ共和憲法及ビ憲法草案ノ影響ノ下ニ及ビ、特ニ一八五二年一月十四日ノナポレオン三世ノ憲法ニ於ケル統帥權ニ關スル第六條ノ規定ガ、一八七〇年ノ佛國ノ戰敗ニ與ヘタ結果ニ省ミテ(註十二) Marcel Barthe ハ



一八七五年二月一日ノ憲法制定議會ノ席上ニ於テ憲法改正案ヲ提議シ(註十三)以テ大統領ガ自ラ統帥權ヲ行フヲ禁止セントシタガ、此案ハ當時ノ大統領タリシ、マクマオン元帥ノ反對ノモトニ通過スルニ至ラズニ終ツタノデアル(註十四)。

サレバ現行憲法ノ下ニ於テハ、大統領ハ統帥ノ最高機關デアツテ、而シテ彼レハ自ラ直接ニ軍ヲ統帥シ得ベク、或ハ其授權ノ下ニ特殊ノ軍事機關ヲシテ軍ヲ統帥セシメ得ベシ、此點ニ就テハ、佛國ノ憲法學者ノ間ニ殆ト異論ナシト云フモ過言デナイガ、唯々一ノ例外トシテ Esmein ハ軍事上ノ知識ナキ大統領ガ此憲法上ノ權能ヲ主張シテ軍ヲ自ラ統帥シ、其結果、國防ヲ危怡ナラシメタル場合ニ於テハ、國事犯トシテ一八七五年二月十五日ノ法律第六條及ビ同七月十六日ノ法律第十條ノ適用ヲ受クベキモノト論ジテ居ルガ(註十五)若シ彼レノ論旨トスル所ガ、憲法ハ軍事上ノ知識ナキ大統領ニ統帥權ノ直接行使ヲ禁ズルモノナリト爲スノ點ニ有リトセバ、彼ノ所說ハ固ヨリ謬論デアル。

今、假リニ Esmein ノ云フガ如キ場合ニ關シテ、佛國ノ下院ガ彈劾權ヲ有シ、上院ハ審問所罰ノ權ヲ有スルモノトスルモ、此場合ニ於テ所罰ナル法律效果ノ結合セラルベキ事實即チ違法ナル事實ハ國益ヲ害スル行爲デアツテ、大統領ノ有スル憲法上ノ權能其物デハナイ、故ニ假リニ軍事上全ク無知識ナル大統領ガ、自ラ軍ヲ指揮スル場合ニ於テモ、苟モ國家ノ利益ヲ害セザル以上、彈劾權ノ對象タル事ハ法律上不可能ナルト共ニ、一面



ニ於テハ、假令、大統領ガ専門ノ軍人タル場合ニ於テモ、故意又ハ過失ニ基キテ國益ヲ害シタル場合ニ於テハ、國事犯ニ關スル憲法上ノ責任ヲ免レ得ナイ、故ニ大統領ノ責任ニ關スル憲法上ノ規定ハ、何等大統領ノ統帥權ニ關スル憲法上ノ權限ヲ制限スルモノデハナイ、換言スレバ、大統領ノ統帥權ニ關スル權能ハ國事犯ニ關スル所罰ノ前提ニ非ズ、所罰トハ何等法律上直接ノ關係ヲ有スルモノニ非ズ。

固ヨリ軍事上ノ安全ヲ期スルガ爲ニハ、軍事上ノ専門知識ヲ以テ大統領ガ直接ニ軍ヲ統帥スルノ條件トナスヲ以テ——勿論知識ノ所有ト目的ノ事實上ノ實現トハ何等ノ必然的關係ナキヲ以テ、此種ノ條件ヲ定ムルモ常ニ必ズシモ軍事上ノ安全ヲ期待シ得ベキデハナイガ——妥當ナリトスベキデアアルガ、之レ單ニ政策上ノ問題デ有ツテ、何ガ法ナルカノ問題、何ガ統帥權ニ關スル大統領ノ權限ナルカノ問題トハ、法論理的ニ無關係ナル問題デ有テ、兩者ハ之レヲ明カニ區別スベキモノナルコトハ明白ナル事理デアアルガ、Esmein ノ所說ハ兩者ヲ混同スルモノデ有テ、其論理的構成ニ於テハ價值判斷ヲ國事犯ニ關スル法的假定判斷ノ法律事實タラシメ、大統領ノ責任ニ關スル法規ノ假面ノ下ニ價值判斷ノ要求スル『軍事的知識ナキ大統領ニ由ル軍隊ノ直接統帥ノ終止』ガ恰モ法的假定判斷ノ主格即チ法律事實トシテ所罰ナル制裁ニ由ツテ禁止サレタル法ノ内容ナルガ如ク思ハシメントシタモノデアアル、乍併、所罰即チ法律效果ノ前提タル



モノハ國益ノ侵害デアツテ、『軍事的知識ナキ大統領ニ由ル軍ノ直接統帥』ニ非ルコトハ、既ニ述ベタ通りデアツテ、法論理的ヲハ全く無關係ナル二者ヲ混同シ、前者即チ國益侵害ノ終止ハ事實的、因果關係の觀察ニ於テ可能ナル一條件タルベキ後者即チ『軍事的知識ナキ大統領ニ由ル軍ノ直接統帥』ヲ當然含ムモノトスルノ誤リニ陷タモノデアル、其法論理的ニモ事實的因果關係の觀察ニ於テモ誤レル判斷ナルコトハ明瞭デアル。

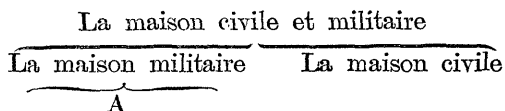
以上論述スル所ニ由レバ、大統領ハ法律上、其軍事上ノ知識ノ有無ト多少トニ不拘、統帥ノ最高機關デアツテ、而シテ其權能ヲ行使スルニ當ツテ大統領ハ特殊ノ軍事機關ニ委任スルコトナク、自ラ直接ニ軍ヲ統帥シ得ベク、或ハ特殊ノ軍事機關ヲシテ其監督ノ下ニ軍ヲ統帥セシメ得ベク、憲法ハ此點ニ關シテ何等ノ制限ヲモ認メテ居ラス(註十六)。

#### (ハ) 大統領ノ軍事官房

大統領ガ其統帥權ヲ行使スルガ爲ニハ其憲法上ノ條件トシテ後ニ述ブルガ如ク國務大臣ノ補弼副署ヲ要シ、而シテ實際ニ於テハ軍令ノ發案起草及ビ其執行ハ、陸海軍大臣及其下ニ於ケル軍事機關ニ由テ行ハル、ガ、大統領ハ其統帥ニ關スル事務ヲ所理スル爲ノ補助機關トシテ大統領ニ直屬スル官房ヲ有スル所謂 *La maison civile et militaire* ト稱スルモノノ一科タル *La maison militaire* ハ即チ此機關デアツテ、歷代ノ大統領ニ由リテ組織セラレ、其人員ハ大統領ノ更迭ト共ニ變更ス、其目的ト



スル所ハ一面ニ於テハ内閣其他ノ諸官廳ヨリ往復スル公文書ノ  
出入ヲ管掌スルト共ニ、他ノ一面ニ於テハ大統領ノ命ニ從ツテ  
内外ノ軍制ニ關スル諸問題ヲ調査研究シ、大統領ノ參考ニ資ス  
ルニ在リ、其構成ハ左ノ如シ(註十七)。



I général de division  
(Chef de la maison militaire)

B

I Contre-amiral

C

6 officiers superieurs(4 lieutenants-colonels et  
2 commandants)

### (ニ) 最高統帥機關トシテノ

#### 大統領ノ價值

最高統帥機關トシテノ大統領ノ價值ハ、大統領ガ強大ナル政  
治上ノ勢力ヲ有スルコト及ビ軍事的専門知識ヲ有スルコトノ二  
條件ヲ備フルヤ否ヤニ由リテ分ル、蓋シ大統領ガ假令強大ナル  
勢力ヲ有シ、國務大臣及ビ議會ヲ動カシ得ベシトスルモ、軍事  
上ノ識見ヲ有セザル場合ニ於テハ、統帥機關トシテ何等ノ價值  
ヲ有セザルハ勿論ナルト共ニ、一方ニ於テハ又、大統領ガ軍事  
上ノ専門知識ヲ有スル場合ニ於テモ、其識見ヲ以テ内閣及ビ議  
會ヲ動カスニ足ル政治上ノ勢力ヲ有セザル場合ニ於テハ、軍事



機關トシテ何等獨立ノ實際的價值ヲ有シ得ベカラザレバナリ。

而ラバ、佛國ノ大統領ハ以上二要素ヲ具備スルカ如何、此問題ニ對シテハ、吾人ハ乍遺憾、消極的判斷ヲ下サバルヲ得ナイ。先ヅ第一ノ條件ニ就テ見ルニ、佛國ノ大統領ハ其法律上ノ權限ノ極メテ大ナルニ反シテ、其實際ノ勢力ハ、極メテ微弱デアツテ、議會ニ於ケル多數黨ノ鼻息ヲ窺フニ在ズンバ、其地位ヲ維持シ能ハザル憲法上ノ裝飾物デアツテ(註十八)此點ハ一九二四年六月ノ政變ニ由ツテ最モ露骨ニ曝露サレタ事實デアルガ、エリゼーガ佛國ノ政界ニ於ケル長老ノ隱居所ト見做サル、ガ如キ、或ハ又、Casimir Périer ガ一九〇五年二月廿二日ノ *Le Temps* ニ寄書シテ (Parmi tous les pouvoirs qui lui (Le Président de la République) semblent attribués, il n'en est qu'un que le Président de la République puisse exercer librement et personnellement: c'est la présidence des solennités nationales) (註十九) ト云ヘルガ如キ或ハ更ニ一九二四年六月十三日ウヰルサイユノ國民議會ノ席上ニ於テ、新大統領 Gaston Doumergue ガ國民議會議長 Bienvenu-Martin ノ挨拶ニ答ヘター節ニ (J'espère ne pas décevoir la confiance que l'Assemblée nationale a mise en moi. Pour justifier cette confiance elle peut être assuré—que uul plus que moi non plus ne s'inspirera des volontés du parlment, expressions de la sounverainté national) (*Review du Droit public*, juillet aoûu-sept 1924, p. 472) ト述ベタ如キハ 孰レモ好ク大



統領ノ從屬的地位ヲ表明スルモノニ外ナラス、サレバ現時ニ於テ大統領ノ有スル地位ハ、專ラ其社會の方面ニ於テ意義ヲ有スルモノト云フベク、大統領ハ“Maitre des cérémonies”デアツテ彼レハ“chasse le lapin et ne gouvernen pas”トハ、政治上ノ規範タルト共ニ、又政治の事實ノ説明デアル、此故ニ佛國ノ學者ガ、大統領ノ職責ヲ 1. Fonction de majesté 2. Nomination des Ministres. 3. Magistrature d'influence (commissaire aux crises)ニ求メ、之ニ由ツテ其存在ノ價值ヲ認メントシテキルノハ、敢テ怪ムニ足ラス。(註二十一) 大統領ノ地位ニシテ以上述ブル如シトセバ、統帥ノ最高機關トシテノ大統領ノ價值モ亦論ズルニ足ラザルベキハ明カデアルガ殊ニ第二ノ技術的の軍事的の要件ニ於テハ、特ニ然リト云ハザルヲ得ナイ、此點ハ敢テ佛國ノ大統領ノミニ限ラス、共和國ノ元首ニ就テハ一般的ニ適用セラルベキノデアツテ、君主國ニ於テハ孰レノ國ニ於テモ國家元首ハ形式的ナリトモ軍事教育ヲ受ケ軍事上ノ知識ハ政治上及ビ法律ニ關スル知識ト相俟テ元首ノ缺ク可ラザル資格ノ一ト見做サレ、從ツテ軍事上全ク無知識ナ君主ハ殆ド有リ得ナイガ、之ニ反シテ共和國ニ於テハ、軍政權ハ理論上文政權ニ從屬スベシトスルノ思想ハ極メテ強烈デアツテ、近代立憲政治ノ根本的理論ト見做サレ、從ツテ共和國ノ元首ハ專ラ其德望、政治上ノ技能、經歷ヲ主トシテ選出セラレ軍事上ノ知識ノ有無ハ、普通ノ場合考慮ニ入レラレザルヲ以テ、孰レノ國ニ於テモ、大統領ハ普通ノ場



合、軍事上ノ門外漢ト云ヒ得ベキデアツテ、英ノクロムウエル、米ノワシントン、アンドリュージャクソン、グラント、ウイリアムヘンリイハリスン、佛國ノナポレオン獨ノヒンデンプルグ等ハ孰レモ異例ニ屬スル、サレバ、大統領ノ政治上ノ勢力ノ強大ナル國家ニ於テモ、其軍事上ノ關係ニ於テハ、彼ハ單ニ消極的地位ヲ有スルニ過ギザルハ當然デアル。

此點ハ佛國ニ於テモ亦同様デアツテ、現行憲法ノ實施以來、大統領ニシテ軍人タリシモノハ獨リ初代ノ大統領タリシ、マクマオンノミデアツテ、唯、凡テ政界ノ長老デ政治上ノ知識ニ於テコソ豊富ナル軍事上ノ知識ニ於テハ素人ト言テヨロシイ。

## 第二項 非常最高統帥機關

一八七五年二月廿五日ノ公權ノ組織ニ關スル法律第七條ハ、死亡又ハ其他ノ場合ノ發生ニ由リテ、大統領ノ缺員トナレル場合ニ於テ、議會ノ兩院ハ直チニヴエルサイユニ相合シテ新大統領ヲ選出スベキコトヲ定メ、而シテ更ニ附加シテ『此間、行政權ハ大臣會議ニ賦與セラルベシ』ト規定ス(註二十二)之レ君主國ニ於ケル interregnum ニ準スベキ場合ノ發生ニ備ヘントスルノ規定デアツテ、斯クノ如キ場合ニ於テハ、行政權ハ憲法上當然大臣會議ニ移リ、大臣ハ相合シテ合議機關トシテ行政權ノ最高機關タル大統領ヘ歸屬スル權限ヲ行フモノデアル。

大臣會議ハ非常機關トシテ行政ノ最高機關タル資格ヲ取得スル場合ハ、消極的ニハ議會ノ兩院ガ國民議會トシテ未ダ新大統領



領ヲ選出スルニ至ラザル場合ノ外、積極的條件トシテハ、(一)大統領ノ死望及ビ(二)其他大統領ノ缺員トナル場合、憲法ハ此後者ノ場合ノ内容ニ就テハ特ニ規定スル所ガ無イガ、思フニ其他ノ場合トハ(イ)國籍ノ喪失(ロ)大統領ガ佛國ニ君臨セル皇帝又ハ國王ノ家族ノ一員タルニ由リテ資格ヲ失ヘル場合(ハ)下院ノ彈劾ニ基キ上院ニ由リテ國事犯ノ判決ヲ受ケタルニ由リテ資格ヲ失ヘル場合等ヲ含ムモノト解スベキデアル(註二十三)。

大臣會議ハ非常機關トシテ行政權ヲ行フ場合ニ關シ、佛國憲法ガ明文ヲ以テ規定スルハ、以上述ブルガ如ク、單ニ大統領ノ缺員ナル場合ニノミ止マルガ、大統領タルモノ、現ニ存スル場合ニ於テモ、精神又ハ身體ノ故障ニ由リ、又ハ或ル外部的事情ニ由リテ大統領ガ自ラ其職務ヲ行フ能ハザル狀態ノ繼續スル場合モ亦第七條規定ノ場合ニ準ズベキモノデアツテ、從テ是等ノ場合ニ於テモ、大臣會議ハ非常最高機關タルノ資格ヲ取得スルモノデアル。(註二十四)

茲ニ云フ大臣會議トハ、內閣ヲ指スモノニ非ルコトヲ注意スルヲ要ス、內閣ハ第一ニ大統領ノ參列ヲ要スルノミナラズ、第二ニ其權限ニ於テモ政府ノ一般政策ニ關スル重要事項ヲ議スルニ止マルモノデアルガ、非常機關トシテ大臣會議ハ大統領ノ存セザル場合ハ又存スルモ自ラ職ヲ行フ能ハザル場合ニ於テ大統領ニ代ツテ行政權ヲ行フモノナルガ故ニ、大統領ノ參列ノモトニ議事ヲ開キ得ベカラザルハ勿論、內閣ノ如ク政府ノ一般政策



ヲ議スルノ目的ヲ有スルモノニモ非ズ。(註二十五)

以上述ブルガ如ク、行政權ガ大臣會議ニ移ル場合ニ於テハ、行政權ノ一作用タル統帥權モ亦當然之ニ移ルモノデアツテ、從テ此會議ハ又、統帥ノ最高機關タル資格ヲ有スルモノデアル。

### 第三項 統帥權行使ノ憲法上ノ條件

#### (イ) 國務大臣ノ副署ト統帥權

一八七五年二月廿五日ノ公權ノ組織ニ關スル第三條ハ、凡テ大統領ノ行爲ハ、國務大臣ノ副署ヲ要スト規定シテ居ル(註二十六)、從テ單ニ事實上ノ行爲ニ非ル大統領ノ國務上ノ凡テノ行爲ハ、文書ノ形式ヲ以テスルヲ要シ、文書ノ形式ヲ以テスル行爲ハ、總テ國務大臣ノ副署ヲ要ス。

此點ニ於テハ、佛國ノ學者ノ間ニ異論ナキ所ト云フヲ得ルダラウ(註二十七)、サレバ統帥權ニ就テモ亦、必ズ國務大臣ノ副署ヲ要シ、副署ナキ行爲ハ其内容ニシテ統帥ニ關スルモノト雖、固ヨリ統帥行爲トシテ法律上ノ全キ價值ヲ有シ得ベキモノニハ非ズ、統帥權ノ行使ガ、國務大臣ノ副署ヲ要スルコトモ亦、佛國ノ最大多數ノ學者ノ認ムル所ト云テヨイ、ガ唯一ノ例外トシテ特ニ注意ヲ要スルモノハ Joseph-Barthélemy ノ說デアル、彼モ前ニモ屢々引用シタ『民主々義ト外交』ナル著述及ビ『内外公法及ビ政治學評論』ニ於ケル論文『公法ト統帥』ニ於テ(註二十八)佛國憲法上、大統領ハ自ラ軍隊ヲ統帥シ得ベキモノナルコトヲ論ジ、而シテ曰ク『憲法ガ此權能(大統領ガ自ラ軍ヲ統帥シ得ル



權能)ヲ國家元首ニ認メタル以上、憲法ハ元首ニ對シテ此權能ヲ何等ノ監督、何等ノ上長ナク、何等ノ制限モナク、又國務大臣ノ副署ヲモ要セズシテ自由ニ行フノ可能性ヲ與ヘタルモノデ、從テ最高統帥機關ハ全ク自由ニ且ツ全責任ノ下ニ行使サレ得ベキモノデアル』ト述べ、更ニ附加シテ『サレバ憲法ハ此點ニ關シテハ議會政治ノ通則ニ對スル一例外ヲ規定セントシタルモノデアル』ト論ジテ居ル、吾人ノ知ル範圍内ニ於テハ、佛國ノ著名ナル憲法學者ニシテ現行憲法ニ關シ斯克ノ如キ見解ヲ發表シタルモノハ、獨リバルテレミーノミデアツテ、國務大臣ノ責任ヲ以テ議會政治ノ基本的理論トナシ、特ニ統帥權ニ對シテ副署ニ關スル憲法上ノ規定ノ適用セラルベキコトヲ信ジテ、何等疑ハザル佛國ノ學界ニ取テハ、眞ニ晴天ノ霹靂ト云フベキデアル、上記バルテレミーノ著書ハ一九一七年ニ公ニサレタモノデアツテ、爾來、今日ニ至ル迄ノ間ニ佛國ニ於テ行政法又ハ憲法ニ關スル著述ノ新ニ出版セラレ又ハ増版セラレタルモノ敢テ尠シトシナイガ(註二十九)、バ氏ノ所說ニ對シテ批判又ハ反駁ヲ加ヘタモノ、ナキハ一見奇異ノ觀ナキ能ハズ。

而レドモ、バルテレミーノ說ハ敢テ佛國學者ノ批判ヲ待ツ迄モナク、明瞭ナ謬論デアル、既ニ述べタ如ク、バルテレミーハ大統領ガ自ラ統帥スルコト、國務大臣ノ副署トハ兩立セザルモノト信ズルモノデ有テ、從テ大統領ガ國務大臣ノ副署ヲ以テスルノ行爲ハ大統領自ラスルノ行爲ニ非ズトナスノデアル、國



務大臣ノ副署ニ由テ行ハル、行爲ハ、大統領自ラスルモノニ非ズトスルガ故ニ、大統領自ラスル場合ニ於テハ、國務大臣ノ副署ハ存スルヲ得ズトナスモノデアル、併シナガラ國務大臣ノ副署ヲ以テスル行爲ハ、大統領自ラ爲ス行爲ト見做シ能ハズトスルハ唯國務大臣ノ副署ヲ以テ、憲法ガ大統領ノ行爲トシテ認ムル各種ノ作用ノ成立ニ必要ナル唯一ノ要素ナリトナスニ由ツテノミ生ジ得ベキ論デアル、サレバ、バルテレミーノ所說ハ、其前提ニ於テ大統領ヲ以テ自ラハ何等直接ニ有效ナル意志ヲ表示シ能ハザルモノトシ、唯、大統領ハ國務大臣ノ行爲ニヨリテノミ有效ニ意志ヲ表示シ得ル機關ニ過ギズトナスモノデ有テ、而シテ斯クノ如キ前提ノ誤マレルコトハ多クノ説明ヲ要スル迄モナク明カデアル、國務大臣ノ副署ハ、バルテレミーノ前提ニ於ケル如ク其自身獨立シテ何等意義ヲ有スルモノニ非ズシテ、唯、國家元首ノ行爲ノ成立ニ必要ナル條件タルニ止マリ、行爲ノ *conditio sine quo non* デアツテ *conditio per quam* ニ非ズ、後者ハ常ニ大統領ノ署名行爲デ有テ、國務大臣ノ副署行爲ニ非ズ、若シバルテレミーノ信ズルガ如ク、國務大臣ノ副署ガ行爲ノ唯一ノ要素ナリト爲サバ、大統領ノ各種ノ權限ハ、大統領ノ署名ヲ要セズ、單ニ國務大臣ノ署名ヲ以テノミ有效ニ行ハレ得ベク、從テ大統領ノ行爲ガ有效ニ成立シ執行シ得ベキガ爲ニハ、常ニ國務大臣ノ副署ノ外、大統領ノ署名ヲ必要トスルノ事實ハ毫モ説明シ能ハザルベク、憲法ガ *interregum* ニ關スル各種ノ規定



ヲ設ケ、行政權ガ大統領ノ存在セザル場合又ハ存スルモ自ラ職務ヲ行フ能ハザル故障ノ發生スル場合ヲ以テ行政ノ活動ガ停止セラル、モノトシ、斯カル狀態ノ發生ヲ防止スルガ爲ニ、非常最高行政機關ニ關スル規定ヲ設クルノ趣旨ハ、バルテレミイノ說ヲ以テハ毫モ理解シ能ハザル可シ、要スルニ、バルテレミイノ說ハ其根底ニ於テ副署行爲ト被副署行爲トノ關係ヲ轉倒スルモノデアツテ、副署ヲ以テ行爲ノ唯一ノ要素ナリト爲スハ、其根底ノ思想ニ於テハ國王ハ臨御スルモ治セズトシ “Que rien ne procède directement du roi dans les actes du gouvernement que tout est l'oeuvre du ministère, même la chose qui se fait au nom du roi et avec sa signature,—”(註三十)ヲ以テ國家元首ノ權限ノ本質ヲ説明シ得タリトナス十九世紀前半期ニ於ケル議會政治論ノ影響ノ下ニ立ツモノデアツテ、政治上ノ主義又ハ事實ノ觀察ト法律上ノ概念ヲ混同スルモノニ外ナラズ。(註三十一)

以上論ズル如ク副署ヲ以テ其正シキ意義ニ解シ、行爲ノ條件ナリトナスニ於テハ、副署アル行爲ト雖、固ヨリ大統領ノ行爲ナルヲ以テ、副署ヲ以テ行フノ行爲ハ大統領自ラ爲スノ行爲ナリ、サレバ副署アル行爲ヲ以テ大統領自ラ爲スノ行爲ニ非ズトナシ、從テ大統領自ラ統帥スル場合ニ於テハ、副署ヲ要セズト爲スハ誤リデアル、此故ニ佛國憲法ガ、大統領自ラ統帥スルノ權ヲ認メタリトスルモ、所謂「自ラ」トハ國務大臣ノ補弼副署無クシテトノ意ニ非ズ、憲法ハ既ニ述ベタル如ク、國務大臣ノ副



署ヲ以テ大統領ノ總テノ國務上ノ行爲ニ缺ク可ラザル條件トナスモノニシテ、從ツテ自ラ統帥スルノ權能ヲ認メタリトスルモ、統帥行爲ノ有效ニ成立セルコト、換言スレバ國務大臣ノ副署ヲ要スルモノナル事ヲ前提トスルハ勿論ナリ、而ラバ憲法ノ所謂『自ラ』トハ如何ニ之ヲ解スベキカ？ 思フニ自ラ統帥スル場合トハ專ラ一般の性質ヲ有スル軍令ニ相對シテ個々ノ軍令ヲ指スモノナリ、普通ノ場合ニ在テハ、唯、大統領ハ軍隊ノ規律、教育及び軍事行動ノ目的ニ關スル一般の規定ヲ定ムルニ止マリ、其下ニ於ケル個々ノ執行ハ國務大臣又ハ其以下ノ機關ヲシテ行ハシムルモノナリト雖、憲法ハ大統領自ラ軍ヲ統帥スルノ可能ヲ認ムルニ由リテ、大統領ガ獨リ一般の規定ヲ定ムルニ止マラズ必要トスル場合ニ於テハ個々ノ場合ニ關シテモ軍令ヲ發シ、他ノ特殊機關ニ委任スルコトナク、自ラ國務大臣ノ補弼ノ下ニ軍ノ統帥ニ關スル必要ナル命令ヲ發シ、又ハ自ラ直接ニ軍ヲ指揮命令シ得ベキ事ヲ認メタルモノニ外ナラズ、サレバ此場合ニ於テモ、大統領ノ統帥行爲ハ其一般のナルト否トヲ問ハズ、又直接ナルト間接ナルトヲ問ハズ、凡テ國務大臣ノ補弼副署ヲ要スルハ當然デアアル、唯、大統領自ラ個々ノ軍令ヲ發スル場合ハ、大統領自ラ陣頭ニ立ツテ指揮命令スル場合ヲモ含ムモノデアアルガ、如何ナル場合ニ於テモ、國務大臣ノ補弼副署ハ、行爲ノ缺ク可ラザル要件ナルヲ以テ、補弼副署ノ可能ナルヤ否ヤニ由テ大統領ノ爲シ得ベキ統帥行爲ガ限制セラル、事アルベキハ勿論



デアル。

(A) 統帥機關トシテノ陸海軍大臣

統帥ニ關シテ大統領ヲ補弼シ、軍令ニ副署スルノ機關ハ、陸海軍各大臣デアル(註三十二)、陸海軍大臣ハ大統領ノ下ニ於ケル最高ノ軍事官廳デアツテ、一面ニ於テハ軍政及統帥ノ兩區域ニ亘テ大統領ヲ補弼シ、部下ノ諸機關ヲ指揮監督スルト共ニ、他ノ一面ニ於テハ內閣ノ一員トシテ議シタル政府ノ一般政策ニ對シテハ他ノ閣員ト共ニ連帶責任自ラ爲シタル行爲ニ就テハ個別責任ヲ議會ニ對シテ負擔ス(註三十三)。

世界大戰中、佛國ハ其國務大臣ニ由ル軍ノ統帥監督ヲ有效ナラシムルガ爲ニ、種々ノ改革ヲ試ミタ事ハ、後ニ述ブル所デアルガ、特ニ述ブルヲ要スルハ一九一六年末ニ採用セラレ、翌十七年三月迄實施サレタ改革デアル(註三十四)、此改革ノ目的トスル所ハ軍隊ノ總指揮官ナル專任軍事機關ヲ置ク事ナク、直接國務大臣ヲシテ有效ニ、各軍團ノ行動ヲ統一監督セントスルニ有タモノデアツテ、此目的ノ爲ニ內閣ハ、一方ニ於テハ陸軍大臣ノ政務並ニ軍政ニ關スル負擔ヲ輕減スルト共ニ、他ノ一方ニ於テハ、行政家トシテ又専門ノ軍人トシテ知名ナリシ G. Lauley 將軍ヲ陸軍大臣ニ任命シ戰地ニ在ル軍ノ統轄ニ專任セシメタ、陸軍大臣ノ行政事務ヲ輕減スルノ手段トシテハ、徴兵事務ヲ公業省ニ移スト共ニ、武器食糧ニ關スル行政ハ之ヲ軍需省ニ移シ議會ニ對スル致務上ノ負擔ヲ減ズルガ爲ニハ、軍事衛生次官及



ビ軍務行政次官ヲシテ分擔セシメタノデアアル、此改革ニ由ツテ、陸軍大ヲシテ名實共ニ軍ノ總指揮官タラシメントシタモノデアラウガ(註三十五)、大ナル效果ヲ舉グルニ至ラズシテ三ヶ月後廢止サル、ニ至タ。

#### (B) 統帥機關トシテノ國務大臣ノ價值

佛國ニ於テハ我國ニ於ケル如ク陸海軍大臣ハ武官タルヲ要セズ、又、事實ニ於テ、ベルギイニ於ケル如ク、陸海軍大臣ハ常ニ現役ノ將官(註三十六)タルニ非ズ、理想ヨリスレバ陸海軍大臣ハ一面ニ於テハ政治家トシテ豐富ナル經歷ヲ要スルト共ニ、他ノ一面ニ於テハ、軍人少クトモ軍事上ノ豐富ナル知識ヲ有スルヲ要スルモ、民本主義ノ要求ハ、前者ニ重キヲ置キ、後者ヲ輕視スルノ傾向ヲ有スルノミナラズ、佛國ノ如キ內閣ノ頻繁ニ更迭スル國ニ於テハ、多クノ場合ニ於テ、兩資格ヲ具備スルモノヲ得ルコト困難ナリ(註三十七)從テ平時ニ於テハ兎ニ角、戰時ニ於テ陸軍大臣ガ、好ク全軍隊ヲ統轄シ、其政治的及技術的技能ヲ發揮スルハ困難ニシテ、動モスレバ陸海軍大臣ハ部下ノ軍事機關ニ由リテ制肘セラル、ヲ免レズ、大戰中、佛國ノ內閣ガ頻繁ニ統帥ノ組織ヲ更ヘザルヲ得ザルニ至レルハ、一面ニ於テハ此理由ニ由ルモノナリ。

#### (ロ) 內閣ト統帥權

國務大臣ノ會議ハ統帥權ニ關シテ二個ノ點ニ於テ重要ナル關係ヲ要ス、其一ハ非常最高機關タル場合デアツテ、其二ハ總テ



政府ノ一般政策ニ關スル重要ナル事項ヲ議スル機關即チ內閣タル場合デアツテ(註三十八)、第一ノ場合ハ既ニ之ヲ述ベタ、茲ニ述ブルヲ要スルモノハ、內閣トシテノ資格ヲ有スル大臣會議ト統帥權ノ關係デアル。

議會政治ノ行ハレ議會ニ對スル國務大臣ノ連帶及個別的責任ノ認メラル、國家ニ於テハ、內閣ノ法律上及政治上ノ地位ノ非議會政治制ノ國家ニ於ケルヨリモ重要ナルベキハ勿論デアツテ、從ツテ各省大官ガ獨立ニ裁決決定シ得ベキ事項ガ、內閣ノ權限ニ由リテ制限セラルベキコトモ怪ムニ足ラス、サレバ佛國ニ於テモ凡ソ大統領ノ名ニ於テ行ハル、國務上ノ行爲及ビ大統領ニ對スル政治上ノ發議ハ勿論一省ニノミ關スル事項ト雖、重ナルモノハ凡テ閣議ニ附シ、閣員ノ多數決ニ由ル(註三十九)承認ヲ經ルヲ要シ、國務大臣ハ單獨ニ發議決定スルヲ得ナイ、從ツテ事、軍ノ統帥ニ關スル場合ニ於テモ亦、大統領ノ名ニ於テスルモノハ勿論、陸軍大臣又ハ海軍大臣ノ名ニ於テスルモノナリトモ重要ナルモノハ凡テ閣議ヲ經ルヲ要スルモノトセラル、固ヨリ之、直接ニハ唯、憲法上ノ慣習ニ其基礎ヲ有スルニ止マリ憲法又ハ法例ニ由リテ直接ニ規定セラル、ノ結果デハナイ、憲法又ハ法例ガ特ニ規定シテ閣議ヲ經ベシトスル事項ハ、今日ニ於テモ比較的少數ノ事項ニ限ラレ(註四十)、其形式ニ於テモ、特ニ閣議ヲ經タルモノナルコトヲ明記スルヲ要スルモノハ、獨リ直接ニ憲法又ハ法例ニ由リテ規定サレタル事項ニノミ止マリ



(註四十一) 內閣ノ一般政策ニ關スル重要ナル事項、即チ憲法上ノ慣習ガ以テ內閣ノ議ヲ經ベシトスル事項ノ如ク廣キ範圍ニ亘ルモノニ非ズ、サレバ此點ヨリスレバ內閣其自身獨立ノ官廳トシテ、議決權ヲ有スルハ、唯、是等憲法又ハ法例ノ直接規定シタル事項ニノミ限ラレ、之レ以外ノ事項ニ就テハ內閣ノ議決ハ法律上ノ行爲ノ效力ニ無關係デ有テ、大統領ノ名ニ於テ爲スモノハ、國務大臣ノ副署、更ニ國務大臣ノ名ニ於テスルモノハ其署名ヲ以テ足り、閣議ハ是等行爲ノ效力トハ無關係ナルガ如ク信ゼラルルモ、之ヲ以テ單ナル事實、單ナル習慣ナリト爲スハ必ズシモ正シカラズ、蓋シ政府ノ一般政策ニ關スル重要ナル事項ヲ凡テ閣議ニ附スルハ、之レ佛國憲法ノ明文ヲ以テ規定スル國務大臣ノ連帶責任ヨリ生ズル當然ノ論理的結果ナリト云フヲ得ベケレバナリ。

以上述ブルガ如ク統帥ニ關スルモノト雖、其重要ナルモノハ凡テ閣議ヲ經ルヲ要スルガ、如何ナル事項ガ重要ナル事項デ、從ツテ閣議ヲ經ベキモノナルカハ、事項ノ客觀的性質ニ由ルノミナラズ一面ニ於テハ特定ノ時ニ於ケル政治上社會上ノ關係ニ於テ定マルモノデ有テ、從テ何等普遍的表準ヲ舉グルヲ得ナイガ、凡テ大統領ノ名ニ於テセラル、行爲ハ、必ズ閣議ヲ經ルヲ要スルモノトセラル、統帥權ニ關スル事項ニ就テモ亦然リ。

#### 第四項 軍事委員會(戰時中設置セラル)

內閣ト關聯シテ統帥ニ關スル重要ナル機關トシテ述ブベキモ



ノハ、大戰中組織サレタ Comité de guerre デアル(註四十二)、此機關ハ內閣ノ分身トモ云フベキモノデ、一九一六年末、英國ノ War council ニ模ツテ組織サレタモノデアツテ、軍隊ニ對スル政府ノ政治監督ヲ一層有效ナラシムル目的ノ下ニ生シタモノデ、其組織ハ內閣ニ由リテ必ズシモ同一デハナカッタガ、一九一七年末ニ於テハ、總理大臣、大藏大臣、軍需大臣、海軍大臣及陸軍大臣ヲ以テ組織セラレタ、此會議ハ大統領ノ列席ノ下ニ議事ヲ開キ、凡ソ軍事ニ關スル重要事項ハ凡テ此會議ニ於テ議決セラレ、其議決事項ニシテ告知ヲ要スルモノハ關係國務大臣又ハ軍隊ニ通達セラレ、大統領又ハ關係國務大臣ノ名ニ於テ執行セラレタ、ジョツフル元帥ハ其總司令官ノ地位ヲ失ヒテ後間モナク政府ノ軍事顧問トシテ此會議ニ於テ其軍事上ノ意見ヲ述ブルノ權ヲ認メラレタガ、此會議ハ戰時中、軍事ニ關シテハ內閣ニ代ル最モ重要ナル會議機關トシテ活動シタモノデアル。

#### 第五項 國務大臣ノ下ニ於ケル主要統帥機關

大統領ノ下ニ於ケル最高統帥機關トシテ國務大臣ハ、各多數ノ統帥機關ヲ統轄ス、今其主要ナルモノニ就テ簡單ニ述ベヨウ。

##### (イ) 參謀本部長

先づ第一ニ擧グベキモノハ參謀長デアル、參謀部ハ一八七四年ニ置設セラレタモノデ有ツテ、參謀長ニ由テ統轄セラレ、陸軍參謀長ハ陸軍大臣ニ、海軍參謀長ハ海軍大臣ニ直屬シ、其ノ命令ノ下ニ行動スル作戰用兵ニ關スル中心機關デアル(註四十四)、



佛國ノ參謀本部ハ我現行制度ノ如ク元首ニ直屬スル機關ニハ非ズ、國務大臣ニ直屬シ、國務大臣ニ對シテ直接ニ責任ヲ負擔スル機關デアル、一八九〇年五月六日ノ命令ハ、其第一條ニ於テ明カニ之ヲ規定シ "Il (le chef d'état-major général) relève directement du ministre de la guerre et agit en vertu de ses ordres" ト云ツテキル。

參謀本部長ハ平時ニ於テハ、參謀本部ヲ統轄シテ、作戰用兵教育ニ關スル調査立案ニ從事スルト共ニ、一面ニ於テハ、高等軍事會議ノ副議長タリ(註四十五)、戰時ニ於テハ出デ、主要軍團ノ司令タルモノデ有ツテ、此資格ニ於テハ Grand Quartier général シトテ知ラル、大戰當時ニ於テハ參謀長ハ主要軍團ノ司令官トシテ事實上全軍隊ノ總司令官ト見做サレタガ(註四十六)、佛國ガ總指揮官ノ制ヲ採ルニ至ルヤ、名實共ニ參謀本部長ハ全軍隊ノ總指揮官タルニ至リ殆ド絶對ノ權力ヲ有スルモノナリ、一九一六年ニ至リ總司令官ノ廢止セラル、ヤ grand quartier général ハ舊ニ復シテ陸軍大臣ノ統帥補助機關トシテ參謀本部ヲ統轄シ作戰用兵ノ主要機關タルニ至ツタ(註四十七)

#### (ロ) 軍司令官

陸海軍大臣ニ直屬シ、其統轄ノ下ニ軍令ノ執行ヲ監掌スル機關ノ重ナルモノハ、海軍ニ在テハ艦隊司令官、鎮守府司令官及ビ是等ニ直屬スル諸軍令機關、陸軍ニ在テハ軍團司令官、要塞司令官及ビ其下ニ在ル軍令機關デアル(註四十八)



## (ハ) 軍令諮詢機關

以上軍令ニ關スル執行機關ノ外、陸海軍各大臣ハ統帥ニ關スル諮詢機關ヲ有ス、其特ニ重要ナルモノハ、高等軍事會議デ有テ此會議ハ陸軍大臣ヲ會長トシ、參謀本部長ヲ副議長トシ、軍司令官及ビ陸軍技術會議ノ議長其他ヨリ成リ、陸軍大臣ノ諮詢ニ答フル機關デアル(註四十九)

## 第六項 統帥權ト軍司令官ノ權限ノ限界

大統領自ラ國務大臣ノ補弼ノ下ニ直接軍ヲ統帥スル場合及ビ大統領ノ授權ノ下ニ國務大臣自ラ軍ヲ統帥スル場合ハ別トシ、軍ノ直接統帥ヲ專任ノ軍事機關ニ委任シテ行ハシムル場合ニ於テハ、憲法上ノ機關ト軍司令官ノ統帥ニ關スル權限ノ限界ヲ的確ニ定ムル事ハ極メテ困難ナル問題デ有ル、特ニ戰時ニ於テハ此問題ヲ適當ニ解決スルト否トハ、國家ノ存亡ニモ影響スル重大問題デ有ツテ、此問題ノ解決ノ爲ニハ、佛國モ他ノ交戰國ト同様、世界大戰中、幾多ノ犠牲ヲ拂ツタガ、理論的ニハ何等解決ノ指針ヲ與ヘズニ終ツタ。

此問題ハ二箇ノ意味ニ於テ困難ナル問題デアル、第一ニ此問題ハ純然タル法律上ノ問題トシテ解決ノ困難ナル問題デアル、法律上、大統領ハ軍ヲ統帥スト云フモ、憲法ガ大統領ノ他ニ委任スベカラザル最小限度ノ權限トシテ認ムル所ガ單ニ敵ヲ指定シ之ニ對シテ軍ノ發動ヲ命ジ、及戰鬪行爲ノ終止ヲ命ズルヲ以テ足ルトスルニ在ルカ、或ハ又一步進ンデ戰鬪行爲ノ内容ニ亘



テモ自ラ權限ヲ有スルヲ要スルカ、若シ然リトスレバ其限界如何、等ノ問題ハ適確ニ解答スルノ極メテ困難ナル問題デアアルノミナラズ、第二ニ假リニ之ヲ解決シ得タリトスルモ、之レ單ニ法ノ形式的問題デアツテ、之レト政治上又ハ軍事的技術的要求トヲ調和セシメン<sup>ル</sup>スルハ、實際問題トシテ極メテ困難デアアル。

政治的社會的考慮ヲ離レテ、單ニ軍事的技術的見地ヨリスレバ、國家ノ全軍隊ヲ舉ゲテ總司令官ナル專任ノ單一軍事機關ノ絶對權ノ下ニ置キ、戰鬪地帶内ニ於テハ統帥ハ勿論軍政及ビ文政ノ兩區域ニ亘テモ其權力ノ絶對ヲ認ムベシトスルハ、之レ恐ク立憲國ニ於ケル最小限度ノ要求デアラウ、併シ乍ラ武斷專制ニ最モ苦キ經驗ヲ有シ、文政權ニ由ル軍權ノ統制ヲ以テ立憲ノ根本主義トナシ、此主義ノ確立ノ爲ニ血ノ犠牲ヲ拂ヒテ惜マザリシ佛國民ニ取テハ、此種ノ要求ハ之ヲ實現スル事困難デアツテ、歷史上ニ於ケル佛國憲法ノ一部ガ總司令官ノ任命ヲ禁止シタノモ此理申ニ由ルモノデアアル。

佛國民ノ傳統的政治的理想ヨリスレバ、軍司令官ハ政治家ニシテ軍事的ニハ全ク素人タル國務大臣ノ命令ノ下ニ立ち、國務大臣ハ内閣ノ執行機關トシテ、内閣及議會ノ監督ノ下ニ出來得ル限リ廣キ範圍ニ於テ軍ノ行動ヲ統制スベキモノデアラウカ、事實上ノ見地ヨリスレバ、軍ノ直接指揮者ニ對シテ或ル範圍内ニ於テ行動ノ自由獨立ヲ認ムベキハ、軍事的行動ノ效果ニ欠ク可ラザル要件ノ一デ有テ、素人タル國務大臣殊ニ政黨ノ支配ノ



下ニ立ツ國務大臣ニ濫リニ干涉スルノ權ヲ認ムルハ不可能ナリト云ハザルヲ得ナイ。

佛國ガ戰前ニ定メ戰時中ニ於テモ一九一五年十二月二日ヨリ翌年十二月十三日ニ至ル期間ヲ除キテ維持シタル主義(註五〇)ハ大體ニ於テ以上ノ技術的及び政治的要求ヲ考慮シ、其中間ヲ取ツタモノデアツテ、一方ニ於テ總司令官ヲ認メズ國務大臣ヲシテ各司令官ヲ統轄セシムル代リニ國務大臣ノ權限ヲ單ニ對戰計畫ノ確定及ビ之レガ執行ノ監督ニ止メ、交戰計畫ノ確定及其實現ハ之レヲ各司令官ニ一任シ、各司令官ハ此範圍内ニ於テハ絶對ノ責任ト權能ヲ有シ、且或ル限ラレタル地帶内ニ於テハ統帥及ビ軍政ノ領域ニ亘テ絶對ノ權力ヲ有スルモノト認メタ、之ニ反シテ前述ノ一九一五年十二月ヨリ翌年十二月ニ亘ル期間ニ於テ、佛國ノ採ツタ主義ハ、大體ニ於テ技術的要求ヲ主トシテ考慮シタモノデアルガ、之レハ議會ノ猛烈ナル反抗ト其實際ニ於ケル欠陥ニ由リ廢止セラレ、再ビ前ノ主義ノ復活ヲ見ルニ至ツタ、以下兩者ニ就テ其大要ヲ述ベヨウ。

(イ) 一九一三年九月廿八日ノ高等統

帥ニ關スル命令ニ於ケル國務大

臣ト軍司令ノ權限ノ限界

一九一一年十二月末、陸軍大臣 Messimy ハ新ウイーン日報記者トノ會見ニ於テ(同月廿八日ル、タン所報)(註五十)政府ト軍司令官ノ統帥權ニ關スル權限ヲ説明シテ戰時ニ於ケル統帥ノ基



本的作用ヲ對戰計畫 (Kriegsplan) ト交戰計畫 (Operationsplan) トノ二種ニ別チ、大統領ノ下ニ於ケル最高軍事機關トシテノ國務大臣ノ直接管掌スル所ヲ以テ前者ニ限リ、後者ハ專ラ各主要軍團司令官ニ委任セラル、モノト述ベテ居ル、Messimy ノ言フ對戰計畫ナルモノハ二箇ノ要素カラ成ルモノデ有テ、其一ハ敵對行動ノ對象タル主要敵軍ノ孰レナルカラ指定スルノ行爲デ有テ、其二ハ斯クノ如クシテ定メラレタル敵軍ヲ打破スル爲ニ軍ノ配置ヲ確定シ及ビ其司令官ヲ任命スルノ行爲デアル、之ニ反シテ各司令官ノ權内ニ屬スル所謂、交戰計畫トハ、戰爭ノ目的ヲ達スルガ爲ニ必要ナル計畫ヲ定メ、及之ヲ執行スルノ行爲ヲ指スモノデアル。

以上 Messimy ノ説明ハ權限ノ大體ニ關スルモノデ、其限界ニ關スル明快ナ表準ヲ與フルモノトハ、勿論云ヘナイガ、其主旨トスル所ハ戰爭ノ目的ヲ達スルガ爲ニ欠ク可ラザル軍事的的作用即チ作戰計畫ノ確定及其實行ハ之ヲ軍司令官ニ一任シ、其絶對ノ權内ニ置クト共ニ、政府ヲシテ專ラ敵國及ビ其主義ナル敵軍ヲ定メ、戰爭ノ目的ヲ達スルニ必要ナル人的及物的資力ヲ給與シ及ビ軍ガ其目的ヲ達スルノ行動ヲ監督セシメントスルニ在ル、此點ハ一九一三年十月廿八日ノ命令ニ於テモ定メラレタル所デ有テ、此命令ノ第一條ハ「戰爭ノ政治的目的ヲ定ムルハ國家ノ根本的利益ヲ見ルノ任ヲ有スル政府ノ專任ニ屬ス、若シ戰爭ニシテ數箇ノ境域ニ擴大スル場合ニ於テハ、政府ハ佛國軍隊ノ



主勢ヲ以テ對抗セシムベキ主要的軍ヲ指定シ、戰爭ニ必要ナル一切ノ援助ト資材ヲ配置シ、交戰地帯ニ於ケル諸軍司令官ノ所置ノ下ニ置クベシ』ト規定シテ居ル(註五十一)。

以上ニ由テ見レバ、憲法ガ普通統帥ノ作用ト信ゼラル、事項ニ關シテ、軍司令官ニ委任スベカラザル政府直接ノ權限ハ、(一)交戰國ヲ指定シ、又ハ個々ノ主要敵軍ヲ定ムル事、(二)軍ノ發動ヲ命ズル事ノ二項デアルガ、以上二事項ノ當然ノ結果トシテ更ニ(三)戰鬪ノ終止ヲ命ズルコトモ亦政府ノ權限ニ留保セラレタル事項ト云フベキデアル。而シテ司令官ニ關シテハ、以上ノ命令ハ總司令官ヲ認メズ、佛國ノ軍隊ハ直接ニハ數人ノ軍司令官ニ由リ分割統帥セラレルコト、(二)是等諸司令官ハ以上述ベタ政府ノ權限ニ抵觸セザル限リ戰爭ノ目的ヲ達スルガ爲ニ下ス命令ニ就テハ、絶對ノ獨立ヲ有スルコトヲ認メテ居ルモノデアル、以上ノ他、尙一九一五年十月廿九日佛國政府ノ發表シタル所ニ由レバ、各司令官ハ、軍事地帯(Zone des armées)内ニ於テハ軍政及統帥ノ兩區域ニ亘テ絶對ノ獨立ヲ有スルモノ、如ク、國務大臣ノ權限ハ唯、非軍事地帯内ニ於テノミ全キモノナルガ如シ。(註五十二)

斯クノ如キ限界ノ範圍内ニ於テハ、司令官ハ獨立ヲ有スルコト以上述ブルガ如シト雖、之レ責任ナキ獨立ニ非ズ、國務大臣ハ司令官ノ統帥行爲ノ内容ニ干涉スル能ハズト雖、必要ト認ムル場合ニ於テハ内閣ノ議ヲ經テ自由ニ各司令官ヲ被免シ得ベキ



ハ勿論デアル。

以上述ベタ主義ハ既ニ言及シタル如ク戰時中一時中絶サレタガ、間モナク復活シ、爾來、其骨子ニ於テハ一貫シテ維持セラレタル所デアル、唯、政府ト司令官ノ權能ノ限界ヲ有效ニ維持スルガ爲ノ手段ニ就テハ各内閣ノ見ル所ニ由テ相違アリ、從テ戰時中、詳細ナル點ニ於テハ屢々變更ヲ免レナカッタガ、之等ノ點ニ就テハ軍事委員會、國務大臣及參謀長ニ關スル論述ニ於テ述ベタ所デアルカラ茲ニ之ヲ再說セヌ。

(ロ) 一九一五年十二月二日ノ命令ニ

於ケル權限ノ限界

既ニ論究シタル如ク總司令官ナル單一ノ專任軍事機關ニ國家ノ全軍隊ヲ統帥スルノ權ヲ一任スルコトハ、佛國民ノ傳統的ニ嫌惡スル所デアルガ、世界大戰ニ於ケル如ク、交戰區域ノ多數ニ亘ル場合ニ於テハ、如何ニ通信機關ノ發達セル今日ニ於テモ、主都ニ在ツテ政務ニ忙殺サル、國務大臣ガ、是等數區域ニ亘ル軍團ノ指揮命令ヲ統一スルコトハ、極メテ困難デアル、サレバ佛國ハ其開戰後ニ於ケル苦ガキ經驗ニ鑑ミテ『戰爭ノ遂行ニ欠ク可ラザル命令ノ統一ノ確保スルハ、唯本來ノ軍事行動ニ對シテ責任ヲ有スル總司令官ガ、戰場ニ出陣スルニ於テノミ可能ナルコト』ヲ認メ(註五十三)、一九一五年十二月二日附ノ命令ヲ以テ、總司令官ノ官職ヲ設クルト共ニ、ジョツフルヲ之ニ任命スルニ至ツタ。



此命令ノ下ニ於テ總司令官ハ、北亞弗利加及ビモロツコニ於ケル軍隊及ビ更ニ殖民大臣ノ管轄内ニ在ル軍隊ヲ除ク以外ノ總テノ佛國軍隊ニ對スル統帥ノ權能ヲ委任セラレタノデアツテ、佛國ノ學者ハ之レヲ以テ『政府ハ軍ヲ統帥スル憲法上ノ權能ヲ總司令官ノ手ニ放棄シ一九一三年十月廿八日ノ命令ガ明文ヲ以テ政府ノ權内ニ保留シタ『戰鬪ニシテ數境域ニ亘ル場合ニ於テハ、佛國ノ使用軍力ヲ對抗セシム可キ主要敵軍ヲ指定スル』ノ權能ヲ與ヘントシタルモノナルコトハ明ダト言テル』(註五<sup>一</sup>四)

純軍事的技術的見地ヨリスレバ、此組織ハ寧ロ前者ニ比シテ優レルモノト云フベキデアラウガ、議會ノ此組織ニ對スル反感甚シカリシノミナラズ、實際ニ吟テモ其效果、豫期ノ如カラズ、加フルニ參謀長ノ專横ニ對スル非難甚シク、法律及國務大臣ノ命令ハ戰地ニ於テ行ハニズ、陸軍次官ハ相次イデ其職務ヲ行フ能ハサルヲ理由トシテ職ヲ辭スルガ如キ國民ノ注目ヲ惹ク事件ノ發生相繼グニ至リ、議會ノ政府ニ對スル非難ハ益甚シク、政府ハ遂ニ一九一六年十二月十三日此組織ヲ廢止スルト共ニ、再ビ前述ノ主義ヲ復活セシムルニ至ツタ。(註五<sup>一</sup>五)

(註一) 憲法制定議會ニ於ケル黨派ノ係關ニ就テハ、Duguit 及ビ Monnier C XIX 及ビ Esmein, II, p. 4 et suiv.

(註二) Esmein, II, p. 20; Duguit et Monnier, CXI VII.

(註三) Esmein, II, p. 3 et suiv.

(註四) 拙論文『佛國ノ政變ト大統領ノ地位』外交時報大正十三年七月號參照。

(註五) Esmein, II, p. 7 et suiv; Duguit et Monnier, CXV et seiv.



- (註六) Duc de Broglie, (ouvrage publié par son fils) Vues sur le gouvernement de la France. p. 225 et suiv.
- (註七) Prévost-Paradol, La France nouvelle, 1868 liv. I, ch. 1 et liv. II, ch. VI 參照。
- (註八) Esmein, I, p. 238 et 241; II, p. 24 et suiv; Duguit et Monnier, 前出。
- (註九) Esmein, II, p. 21 et suiv.
- (註十) " Un chef; un seul chef,—point de gouvernement à plusieurs têtes; Un chef inviolable, quoi qu'il en puisse coûter à la responsabilité effective; Un chef investi de tous les attributs de la royauté,—l'initiative et le veto,—l'exécution des lois,—la direction de l'administration dans toutes ses branches,— la nomination à tous les emplois, aux conditions légales— le commandement des armées de terre et de mer." Vues sur le gouvernement de la France p. 227.
- (註十一) 前出拙論文參照、外ニ Duguit, Traité de droit constitutionnel, t. IV, p. 568 et suiv.; G. Cahen, La loi et le règlement, p. 154; Esmein, II, p. 11.
- (註十二) „Il dispose de la force armée.“
- (註十三) Locke, Montesquieu 及 Rousseau ニ就テハ拙論文「憲法ト國民外交ノ保證」外交時報大正十四年三月及五月號參照、外ニ Carré de Malberg, Théorie général de l'Etat, II, ch IV; Stahl ニ就テハ拙著 Ordinance Power of The Japanese Emperor, chap. I; 最後ニ B. Constant ニ關シテハ本論第三章第一節第一項參照。
- (註十四) 此ノ案ノ詳細ナル Barthe ノ説明ニ就テハ Sirey, Recueil des lois serie II, année 1875. p. 675 note 4 參照。
- (註十五) II, p. 144 註參照。
- (註十六) Joseph-Barthélemy, Démocratie et politique étrangère, p. 340 參照。
- (註十七) M. Hauriou, Presis de Droit Constitutionnel. 1923, p. 456 參照。
- (註十八) 拙論文「佛國ノ政變ト大統領ノ地位」外交時報大正十三年七月號參照。Barthélemy. Le Gouvernement de la France, p. 93. et suiv; Esmein,



i, p. 259 et suiv. 參照。

(註十九) Barthélemy 前出 P 94.

(註二十) Barthélemy, p. 97.

(註二十一) Barthélemy, p. 97.

(註二十二) „En cas de vacance par décès ou pour toute autre cause, les deux  
Chambre réunies procèdent immédiatement à l'élection d'un Président  
— Dans l'intervalle le conseil des ministres est investi du pouvoir exécutif.”

(註二十三) 是等ノ諸點ニ就テハ Esmein, II, p. 50 et suiv.; Duguit, IV, p.  
565 et suiv.

(註二十四) Esmein, II, p. 53 et suiv.

(註二十五) Duguit, IV, p. 566.

(註二十六) „Chacun des actes du Président de la République doit être  
contresigné par un ministre.” Esmein, II, p. 64 et suiv.; Duguit, IV,  
p. 808; H. Hervieu, Les Ministres, p. 678. et 680 Julien Laferrière,  
Le Contreseing Ministériel, Revue D'Admin. g. XCII. — juin 1908 p.  
165; André Lebon, Das Verfassungsrecht der französischen Republik,  
S. 56.

(註二十七) 註二十六參照。

(註二十八) J-Barthélemy, Le Droit Public en temps de guerre, VI. Les  
pouvoirs publics et le commandement militaire (Extrait de la Revue  
du Droit public et de la Science politique en France et à l'Étranger,  
octobre-novembre-décembre, 1916. p. 17; Démocratie et Politique Étran-  
gère, p. 339.

(註二十九) 主要ナルモノヲ擧グルバ Esmein, 7ème édit. par H. Nézard,  
1921; Hauriou, 前出、新刊 1923; Duguit, 2ème édit 1924; H. Berthélemy,  
Traité Élémentaire de Droit Administratif, 1921. 其他 Jèze, Morou等。

(註三十) 本論文第三章第一節第二項參照。

(註三十一) バルテレミイノ所說ハ行爲ノ執行ト行爲其自身トヲ混同スルニ由  
リテモ生ジ得ベシ、普通國務大臣ハ同時ニ行政ノ長官ニシテ、從テ副署



シタル行爲ノ執行ハ國務大臣ノ權限ニ屬スルモノナリ、從ツテ單ニ行爲ノ執行ニノミ就テ謂ヘバ、副署アル行爲ハ大統領自ラ之ヲ行フモノニ非ズト云フヲ得ベシ、從テ大統領自ラ行フ行爲ハ國務大臣ノ副署有ルヲ得ズト云フヲ得ベキガ如シ、然レドモ副署サレタル行爲ノ執行ガ國務大臣ノ權内ニ屬スルコトハ、之レ副署行爲其物ノ效果ニ非ズシテ、別箇ノ法規ニ基クモノニシテ、從テ大統領自ラ行フ行爲ハ、國務大臣ノ副署ト兩立スルモノニ非ズト爲スハ誤ナルノミナラズ、假ニ副署シタル行爲ノ執行ガ、副署ノ當然ノ效果トシテ國務大臣ノ權限内ニ屬スルモノトスルモ、之レ單ニ何ガ副署ノ效果ナルヤノ問題ニシテ、之レヲ基礎トシテ如何ナル行爲ガ副署ヲ要スルカノ問題ニ答ヘ得ベシトスルハ正シカラズ、後ノ問題ハ唯、國務大臣ノ副署ヲ要スルモノト爲ス行爲ニ關スル規定ニ由リテノミ説クコトヲ得ベシ。

(註三十二) 海軍大臣ニ就テハ一八九〇年八月十五日ノ海軍省官制ニ關スル命令參照、Recueil Sirey, année 1892, p. 240. 陸軍大臣ニ就テハ陸軍省官制ニ關スル一八八八年二月十八日ノ命令參照、Recueil Sirey, année 1889, p. 471.

(註三十三) „Les ministres sort solidairement responsables devant les chambres de la politique générale du Gouvernement, et individuellement de leurs actes personnels.

(註三十四) Barthélemy, Démocratie p. 367. 參照。

(註三十五) 陸軍大臣ローレーハ一九一七年正月廿一日議會ニ於テ左ノ如ク云テ居ル。Si j'occupe la lourde charge qu'on m'a confiée, .. c'est .. pour commander à tous ceux à qui j'ai le droit et le devoir de commander.,,

(註三十六) Dupriez, Les ministres dans les principaux pays d'Europe et d'Amerique, t. 1,2. éd. 1892, p. 213.

(註三十七) 此點ニ就テハ Henri Hervieu, Les Ministres, 1893. p. 108 參照。

(註三十八) Duguít, IV, p. 113; Esmein II, p. 221 et s.

(註三十九) Esmein, II, p. 221.

(註四十) Esmein, II, p. 222.



- (註四十一) Esmein, II, p. 222.
- (註四十二) Hatschek, Konventionalregeln oder über die Grenzen der naturwissenschaftlichen Begriffsbildung im öffentlichen Rechte: Jahrbuch des öffentlichen Rechts der Gegenwart, Bd. III. 1909 S. 1. ff.
- (註四十三) 此機關ニ就テハ、バルテレミイ前出民主義ト外交 p. 372 note 1
- (註四十四) 參謀本部長及ビ參謀本部ノ權限ニ就テハ一八九〇年五月六日ノ參謀本部ノ組織ニ關スル命令參照、Journal Officiel, 1890. p. 2234.
- (註四十五) Esmein, II, p. 145 參照。
- (註四十六) 註四十五參照。
- (註四十七) Barthélemy 前出 p. 367 參照。
- (註四十八) Barthélemy, Droit Administratif. p. 403 et s.
- (註四十九) Barthélemy, p. 349—351, p. 364—372. 參照。
- (註五十) Gaston Jèze, Das Verwaltungsrecht, S. 221. 參照。
- (註五十一) Rapp. Décembre 1913 portant règlement du service.  
des armées en campagne. Duguit IV, p. 599; Barthélemy, p. 351.
- (註五十二) Duguit, IV, p. 599.
- (註五十三) Duguit, IV, p. 600.
- (註五十四) Duguit, IV, p. 600.
- (註五十五) Barthélemy, p. 365.